

チェコヴィッチの回想録 グルジェフ氏の思い出

SOUVENIRS SUR GEORGII
IVANOVITCH GURDJIEFF

Tchesslav Tchechovitch



第二編
フランスの学院での活動とアメリカ訪問
(一九二二年～一九二四年)

郷 尚文 訳

1921年の出会いより、コンスタンチノーブルからフランス、アメリカに至るまでグルジェフと行動を共にし、28年にわたり親密な関わりを維持したチエスラヴ・チェコヴィッチの回想録。第二編にはフランスに開設された学院での活動の最盛期からの数々の秘話・逸話を収める。

分量：約6万5千字＋画像21点（単行本換算約100ページ）

目次

インテリたちのおせっかい

プリアーレでの日々 共同作業とエクササイズ

クリスマスツリー

キャサリン・マンスフィールドの思い出

キャサリン・マンスフィールドの再訪

アレクサンドル・ド・ザルツマンと絵描きの技

軽業の披露

ムーヴメンツの公開とジャーナリストの訪問

お馬鹿のエクササイズ

人間にふさわしい働き

不可解な仕打ち

エリートの特徴

岩を割る技

蒸し風呂の秘密

電気式医療機器

同一化の力

「ストップ！」

動物たちと自然の理

休息と祝祭

(一)ピクニックと「馬鹿への乾杯」

(二)クリスマス

(三)新年とグルジェフ氏の誕生日

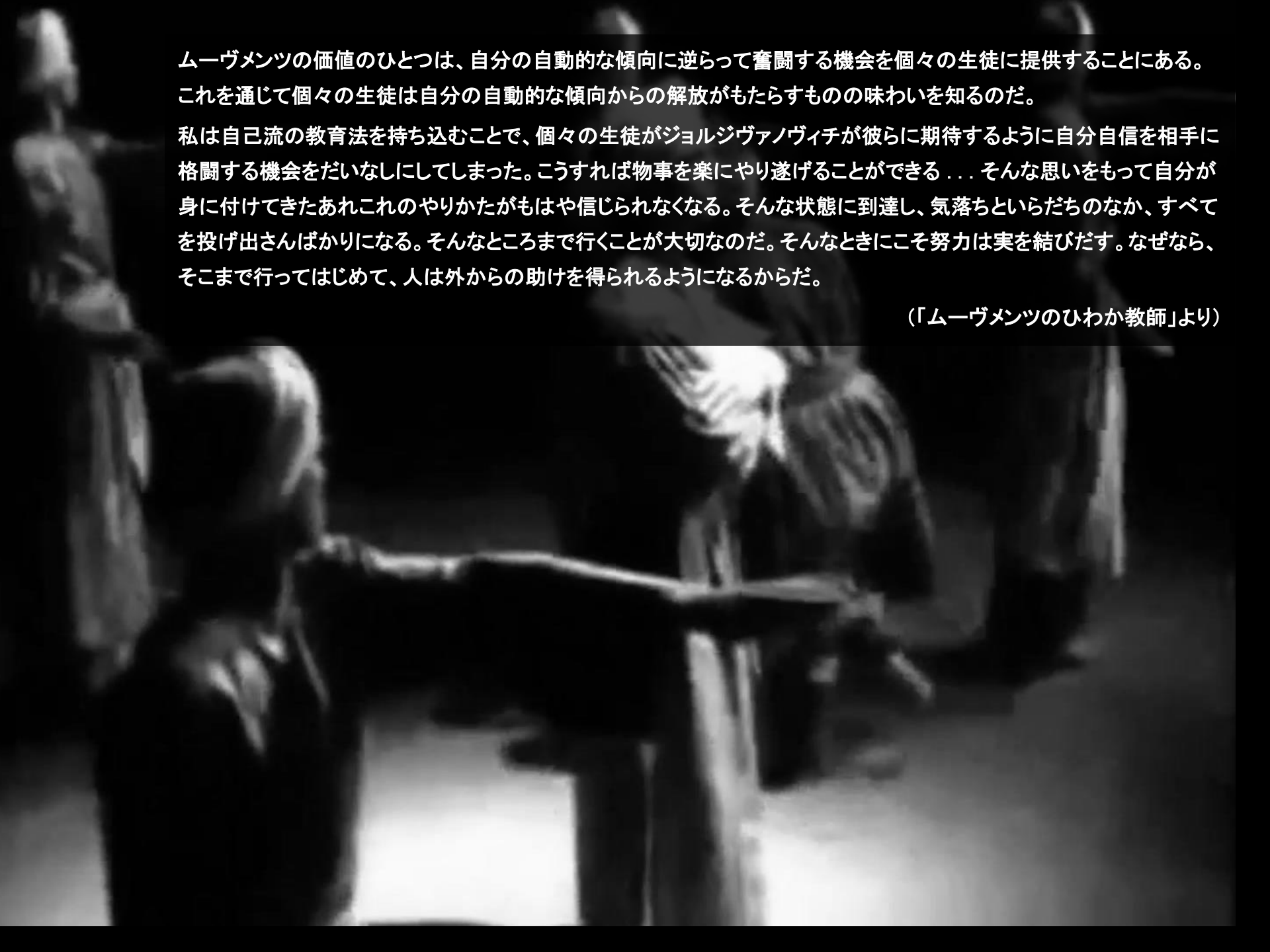
(四)蒸し風呂の楽しみ

いったいどんな権限があつて？

ムーヴメンツのにわか教師

偉大な人の昏睡とそこからの目覚め

[Amazonストア](https://www.amazon.co.jp/dp/4065110000)



ムーヴメンツの価値のひとつは、自分の自動的な傾向に逆らって奮闘する機会を個々の生徒に提供することにある。これを通じて個々の生徒は自分の自動的な傾向からの解放がもたらすものの味わいを知るのだ。

私は自己流の教育法を持ち込むことで、個々の生徒がジョルジヴァノヴィチが彼らに期待するように自分自信を相手に格闘する機会をだいなしにしてしまった。こうすれば物事を楽にやり遂げることができる... そんな思いをもって自分が身に付けてきたあれこれのやりかたがもはや信じられなくなる。そんな状態に到達し、気落ちといらだちのなか、すべてを投げ出さんばかりになる。そんなところまで行くことが大切なのだ。そんなときにこそ努力は実を結びだす。なぜなら、そこまで行ってはじめて、人は外からの助けを得られるようになるからだ。

(「ムーヴメンツのひわか教師」より)



チェスラヴ・チェコヴィッチ(1895～1992)：

ロシア南部、ドニエプル側のほとりに生まれ、大自然のなか奔放な子供時代を送ったのち、肉体の鍛錬に熱中し、高校ではレスリングのチャンピオンとなる。大学中退後、軍学校に進み、ロシア白軍の士官として従軍するが、1920年にコンスタンチノーブルで離脱、同年にウスペンスキーに出会う。翌年にグルジェフと出会い、下宿を許される。その後、ベルリン、フランス、アメリカと行動を共にし、最後まで結び付きを維持した。

コンスタンチノーブルではサーカスの力士および家庭教師として、パリではベーカリーを自営して生計を立てていた。釣りの名人として知られるほか、手品やピアノの腕までも知れる。

特別に鋭い直感の持ち主で、それがウクライナ大使館がらみの集団拉致の罠から自分を含む一行を救った逸話を第一編に収録するほか、さらに驚くべき逸話を第三編に収録。グルジェフの死後、パリおよびイビザ隣島でグループを指導。